

## ▼ペチジン塩酸塩注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ペチジン塩酸塩 (麻薬) pethidine hydrochloride 【分類】 麻薬性鎮痛剤

【単位】 ▼35mg/A [1mL]・▼50mg/A [1mL]

【常用量】 ■疼痛 1回 35～50mg, 必要に応じて3～4時間ごとに追加

■麻酔前投薬: 麻酔前 30～90分に 50～100mg

■全麻補助: 10mg/mLに希釈して10～15mgずつ間歇的に静注

■無痛分娩: 1回 70～100mg, 必要に応じて3～4時間ごとに 35～70mg ずつ1～2回追加 [母体及び胎児の呼吸抑制を防ぐためにペチジン塩酸塩 100mg に対してレバロルファン酒石酸塩 1mg の投与比率で混合注射]

【用法】 皮下注または筋注。適応により緩徐に静注

【透析患者への投与方法】 慎重投与であり, 具体的には設定されていない (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 慎重投与であり, 具体的には設定されていない (1)

【特徴】

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

【F】 94%以上 [im] (1) 50% [po] (1)

【tmax】

【代謝】 ペチジン酸に加水分解され, 次いでその一部は抱合される。N-脱メチル化されてノルペチジンになり, 次にノルペチジン酸に加水分解され, 抱合される。少量のペチジンは未変化体で排泄 (1) N-脱メチル化には CYP2B6 が主に関与 (1) ノルペチジンには活性があり, 興奮症状発現に関与 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 4%程度 (1) 活性体と合わせても最大 20%程度 (1)

【t1/2】 8.1hr (1)

【蛋白結合率】

【Vd】 5～6L/kg (1)

【MW】

【透析性】

【OW 係数】

【相互作用】 MAO 阻害剤と併用禁忌 [2 週間あける] (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20190914

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。